

福島ブロック会議

5月19日(日)野田町教会で福島の問題に関わっている小教区、団体が集まり、これからの三年のそれぞれの活動を進めていくために、司教協議会会長岡田大司教様の「東日本大震災発生から三年を迎えて」を基に分かち合いをもった。

テーマを4つに分けて有意義な分かち合いがなされた。分かち合いに終わらせず、具体的な関わりへとつなげていくことができると願っている。

1. 避難生活者、生活の見直し、心のケア

①現状、②避難区域外被災者、③避難できない被災者、④補償打ち切りにより生活困難に、⑤避難先から戻ってきた人、⑥生き方・生活スタイル、⑦反省と要望

2. 津波・地震のガレキ等撤去、家の片づけ

①現状、②課題・問題、③a 課題・問題への取り組み、④具体的な関わり

3. ボランティアの受け入れ、「東日本大震災者のための祈りⅡ」の活用

①県内の協力、②県外のボランティアの受け入れ、③祈り～教会全体で祈っていない現実

4. 原発廃止の呼びかけ

①原発・放射能に対する正しい知識を得る、②当事者の生の声を聴く、③生活の見直し、④原発に依存しない生活基盤、⑤原発の怖さ、取り返しがつかない、⑥人々とのつながり・関係、⑦いのちの破壊・いのちが脅かされている、⑧祈りと発信



仮設住宅での孤独死

福島民報 5/25 に一人暮らし(49)男性が孤独死していたことが載っていた。一年程前までは住民の草刈り、ゴミ拾いに頻繁に参加していたという。死後数日たったの発見で病死とみられる。見守りの重要性、そのあり方を考えさせる記事だった。

『原発』という差別～フクシマの声に聴く～

6月9日～11日、日本基督教団主催「第4回部落解放全国活動者会議 in 会津」に参加した。全国から170名ほどの参加者の真剣な学びの場に圧倒された。「全国水平社創立宣言」文を全員で唱和し、開会礼拝で幕を開けた会議は、はじめから「人」が「人」に基づき、神の国、キリスト者の共同体がどのようなものであったか。その共同体に入会する洗礼の意味を問う「聖書研究」では、今福島を生きる私たちが何を問われているかを指摘された研究であった。原発(核)事故被災者として、僧侶、強制避難者、自主(区域外)避難者、農業従事者の立場から分かち合われた、心のうちから涙とともに絞り出されるような話に参加者のみな心の心は強く揺さぶられ、そこかしこで涙をそっと拭っている姿があった。

視察の案内



6月20日には、神戸地区社会活動委員を通して支援しておられる仮設を訪問されるのに、目的地へのご案内、また、道中の説明などをさせて頂く。南相馬での状況を原町ベースで聞かれ、南相馬の視察の後、川内村から非難されている郡山市の仮設住宅までのご案内し、仮設でお話を伺った。仮設住民の大半は80歳以上という。仮設団地の中には、川内村役場出張所、そしてデーサービスセンターも設置されていた。昨年避難解除がされてからは支援が

打ち切られ、生活の困窮が、神戸にお米支援を願わなければならなかったという状況を耳にして、経済的にも生活がひっ迫している現実に出会った。この仮設住宅は、ビッグパレットという大きな施設の道を隔てた都市の中にある。仮設団地の真ん中に、ちょっと広めの道が作られ、そこで「川内村」住民と「富岡町」住民の仮設住宅が隔てられていた。この二つの地域では、帰還困難区域と避難解除地域の差が歴然としているという。「川内村」住民の仮設住宅は近辺にまだ2個あった。そちらにも足を運び、耳にしたのは「ここにずっと残る人もいる。それが何年になるかはわからない。10年、20年・・・ここでいのちを終える人もいると思う」との自治会長さんの話が耳にこびりついてこたましている。そして、「今一番必要なのは、お掃除のボランティア」「3年たって、汚れてしまった換気扇やエアコンディションの掃除ができない人が多い」「それから、食糧が・・・パックのご飯とか、缶詰とか。缶詰なども一日で食べきれぬ程度のもがいい。」現実の厳しさを突き付けられた。支援を続けてこられた神戸の信者さんたちが、やっと仮設の方々に会い出来、感無量で「やっと、お会いしにこれました！」と涙され、住民の方々もふっと涙された光景が印象的だった。

最後に『会津磐梯山は…』とみんなでうたい、『川内小唄』を住民の方々が歌われたことに、自治会長さんは「こんなこと初めて。みんな、あんなに話すとは思わなかった。川内小唄も初めて！」と感慨深そうだった。

21日宿舎のある二本松まで迎えに行き、葛尾村からの避難者の田村郡三春町の仮設住宅までご案内して、そこでもお話を伺う。三春町の貝山仮設、この仮設住宅の中には葛尾村の村役場も移転してきている。過剰仮設の住民の明るさは何に由来するのだろうか。住民の方々と神戸の信者さんたちが、そこかしこで大きな声で笑いながら談笑しておられ、何がきっかけだったのか、住民の方々の天井からつるされている手の込んだ手作りの飾りの品々が次々とおろされ、手渡されていった。賑やかに飾られていた部屋は何か閑散と感じられたが、人々の笑顔がそれを上回って幸せを醸し出していた。



災害関連県内死者・行方不明者数（『福島民報』に基づく）

とまらない「災害関連死」

	直接	関 連 死										
	2011	2013年 3/11	5/10	5/31	5/15	8/11	9/18	11/12	11/24	2014年 1/18	5/11	6/11
相馬市	439	21	21	21	21	21	21	25	25	25	25	26
南相馬	525	396	409	409	419	428	431	437	437	439	452	452
広野町	2	31	31	31	31	36	36	37	37	38	38	39
檜葉町	11	74	79	79	79	79	79	86	90	95	100	100
富岡町	18	146	160	167	167	176	176	203	203	215	240	244
川内村	-----	49	49	49	49	49	49	64	64	68	72	72
大熊町	11	80	83	83	83	97	97	98	98	99	102	103
双葉町	17	90	93	96	96	99	99	99	99	99	99	99
浪江町	149	247	264	271	271	271	271	302	306	315	320	329
葛尾村	-----	16	17	17	17	21	21	24	24	24	24	24
新地町	100	6	6	6	6	6	6	6	8	8	8	9
飯館村	1	39	42	42	42	42	42	42	42	42	42	42
いわき	293	111	111	111	116	116	116	116	116	116	125	125
県総数	1599	1324	1383	1400	1415	1459	1462	1575	1585	1627	1699	1718